

19 世紀前半における東南アジア域内交易の発展

—シンガポールの貿易体制を中心に—

平成 21 年入学

参加したフィールドスクール：タイフィールドスクール

調査地：イギリス

小林 篤史

キーワード：交易，シンガポール，河川，アジア商人，東南アジア産物

自分の研究テーマについて

近代アジア貿易圏に関する研究においては，19 世紀中葉に西欧植民地主義の進出による断絶の側面が強調され，アジアの側からの主体的な動きについてはあまり論じられてこなかった。しかし，近年 19 世紀前半のアジア間貿易の成長や（杉原 2009），東南アジアの活発な貿易活動等が指摘され（Reid1997），それらは西欧進出に対するアジア商人の反応によってなされたとされる。そこからは，アジア貿易圏は 19 世紀中葉に断絶ではなく，西欧とアジアの相互作用による変容を経験したという認識が生まれてくるのである。

しかしながら，アジア商人の反応という点が指摘されながらも，未だそれら商人の活動域であるローカルな交易，すなわち東南アジア域内の交易の展開について明示されていない。そこで本研究では，19 世紀前半の東南アジア域内交易の内実を，特に英植民地港で東南アジアの貿易拠点だったシンガポールに焦点を当てて明らかにする。

これまでの調査で，東南アジア域内交易額は 19 世紀前半を通して増加し，シンガポール貿易体制は域内交易が基盤となっていたことが明らかになった。シンガポールの域内交易は，アジア商人によるイギリス綿製品再輸出と，東南アジア産物輸入によって構成され，アジア商人の拠点港としての性質を示していた。

つまり，19 世紀前半，西欧植民地を中心とした東南アジア域内交易は成長し，またシンガポールはアジア商人の活動を基盤として，その貿易を発展させたのである。



北タイファーン群のミカン・プランテーション—ここで使われる農薬が、地域河川の水質汚染を引き起こしている。



チェンセン港の中国船—中国雲南省からメコン川を下って、毎日中国商品が船で大量に運ばれてくる。

フィールドスクールから得られた知見について

今回のフィールドスクールは、北タイ山地社会の実態について知見を得る絶好の機会となった。私たちが訪れた北タイ山地は豊富な森林におおわれ、またラオス、ミャンマーとの国境地帯でもある。事前講義では、北タイの森林伐採について、そしてミャンマーからの移民に関する問題について学んだ。

実際に私たちが訪れたホアファイ村は、NGO Link の支援を受けて、地域住民が自らの生活基盤となっている森林保護に成功した村である。彼らの活動は政治的な主張だけではなく、自分たちの現状を正確に認識しようという、地域社会の主体性から成り立っている。そして彼らの活動にとって重要なツールが、農地から共有林までを可視化できる地図であり、地図作成を支援する Link の活動は重要であった。これらの事例を実際に見ることで、地域社会が持つ機能や、NGO 活動の内実について深い理解を得られた。

また、北タイ山地の実態からは、河川の重要性というものを再認識した。河川は人々の生活に欠かせない水の供給源であり、生活用水、水田灌漑、そして貨物の運搬にも利用される多様な役割を担っている。もちろん河川は、どこの地域においてもその重要性は高いのであるが、北タイ山地においては森林伐採や、プランテーションによる河川も含めた環境破壊が起こり、そして河川が国境の構成要素となっていることから、その政治経済的価値は高い。そこからは、地域社会と河川の深い関係を学ぶことができた。



ホアファイ村の立体地図—村の人々は、こういった地図を用いて自分たちの地域を把握している。

フィールドスクールで学んだことがどのように研究テーマにいかせるか？

地域社会というものが、世界規模の大きな動態と接触したとき、確かに地域社会はそれに大きな影響を受けながら、地域の固有性が様々な側面や、段階で光を放つのではないか。経済的には飲み込まれても、別の側面で活発な動きが生じたり、長期間置いたのち復興が起こったりする。19 世紀前半に、西欧の進出にあった東南アジア地域の固有性はどのような動態をみせたのかを明らかにしていきたい。

また東南アジア大陸部の山地においては、河川が非常に重要な交通路となっているということが実感できた。特に経済的な力を増す中国の影響が、メコン川を介して北タイ山地

社会へと至っている様からは、古くはバンコクといった海洋交易拠点と、河川を介して商品交易があった山地社会という構図が、現在でもその相手は中国に変わりながらも残っているといえる。19世紀の東南アジア交易における、交通路としての河川の重要性にも着目していく必要があると考えられる。

引用文献

Reid, Anthony. 1997. A New Phase of Commercial Expansion in Southeast Asia, 1760-1840. Anthony Reid ed., *The Last Stand of Asian Autonomies*. New York: St Martin's Press, pp.57-81.

杉原薫. 2009. 「19世紀前半のアジア交易圏 - 統計的考察」 籠谷直人・脇村孝平編『帝国とアジア・ネットワーク：長期の19世紀』世界思想社, 250-281.